

取扱説明書

////ALPINE®

DDL-RT16S

チューナブル・セバレート・2ウェイ・スピーカーシステム

DDL-RT16C

チューナブル・コアキシャル・2ウェイ・スピーカーシステム

68-10872Z94-A

Printed in China (Y-708)

安全のために必ずお守りください

- ご使用の前に、この取扱説明書をよく読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後も、説明書を手元に置いてご使用ください。説明書の指示を守らなかったことによる不具合に対して、当社は責任を負いかねます。
- この説明書は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

分解・改造をしないでください。事故・火災・感電の原因になります。



禁止

ネジなどの小物類は、幼児の手の届かないところに保管してください。
飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。



前方の視界を妨げる場所、ハンドル・変速レバーなど運転操作を妨げる場所、
同乗者に危険を及ぼす場所には、取り付けないでください。事故・ケガの原因
になります。



禁止

音が出ない、異物が入った、煙が出る、変な臭いがしたときには、ただちに使用を中止して、お買い上げ店に相談してください。事故・火災・感電の原因になります。



禁止



強制

車体に穴を開ける場合には、パイプ・タンク・電気配線などを傷つけないでください。事故・火災の原因になります。



コード類は運転操作の妨げとならないように束ねてください。ハンドル・変速レバー・ブレーキペダルなどに巻き付くと、事故・故障の原因になります。



⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

説明書に従って、正しく接続してください。火災・事故の原因になります。



禁止

コードをシートレールにはさんだり、突起部に当てたりしないでください。
断線やショートにより、感電・火災の原因になります。



付属部品を指定通りに使い、しっかりと取り付けてください。事故・故障の原因になります。



禁止

水のかかるところ、湿気やホコリの多いところには取り付けないでください。
火災・故障の原因になります。



禁止

取り付け・配線には、専門技術と経験が必要です。お買い上げ店に依頼してください。



車以外には使わないでください。感電・ケガの原因になります。



禁止

使用上のご注意

⚠ 大音量で鳴らすとスピーカーが破損する場合があります。
車外の音が聞こえる音量でご使用ください。事故・故障または、聴力障害の原因になります。

充実したサポートとサービスのために是非お客様登録をお願いします。

アルパイン製品をご購入いただいたお客様を対象にしたサポート・サービスをはじめ、アルパインサイトの様々なオンラインサービスをご利用いただけます。

詳しくは以下のサイトまで！
https://secure.alpine.co.jp/cras/reg_top.html



アルパイン株式会社
Designed by ALPINE Japan

保証書／アフターサービスについて

保証書について

- この製品には保証書が添付されています。お買い上げの際、お受け取りください。
- 必ず「販売店印・お買い上げ日」を確認し、よくお読みのうえ、大切に保管してください。
- 保証書は再発行できませんので、大切に保管してください。

アフターサービスについて

- 調子が悪いとき………ます、この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。
- それでも調子が悪いとき…お買い上げ店、またはインフォメーションセンターにご相談ください。
- アフターサービスについての詳細、その他ご不明な点はお買い上げ店または下記の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

お問い合わせはインフォメーションセンターへ		
●インフォメーションセンター ＜一般回線ご利用のお客様用＞ TEL：0570-006636 ※全国どこからでも市内通話料金でご利用頂けます。 (一部回線がつながらない場合があります。) ＜携帯電話、IP 電話、光電話等をご利用のお客様用＞ TEL：048-662-6636		●電話受付時間 9：30～12：00、13：00～17：30 (土日、祝日、弊社休業日を除く) ●電話は混雑が予想されます。FAX でのお問い合わせをおすすめします。 FAX：048-662-6676 ●アルパイン ホームページ http://www.alpine.co.jp

はじめに

ここからの説明は、専門技術と経験のある方を対象にしています。

- 接続は、車の電装系が理解できる知識が必要です。曖昧な理解で作業を進めると車体に重大な影響を与える場合がありますので、専門業者に依頼することをお勧めします。
- 希望する取り付け位置に対して、コードの長さが十分にあることを確認してください。
- 不明な点はお買い上げ店、インフォメーションセンターにお問い合わせください。
- 仕様及び外觀は、改良の為に予告なく変更する場合があります。
- 本説明書の写真やイラストは、撮影・印刷条件により、実物と印象が相違する場合があります。
- 本説明書の取り付け情報は、平成21年10月現在の調査に基づく内容です。
- 取り付け作業を行う時は、取り付けるスピーカーのフレーム内部に、作業時に発生するクズやゴミが入らないようにご注意ください。故障や異常などの原因になる場合があります。
- ドアや後席側面は雨水が回りこむ場合がありますので、必ず付属のクッションを本説明書にしたがって取り付けてください。また、車種により防水対策が必要な場合があります。お車に合わせ万全な防水対策を行ってください。

1. 準備する

1 車を安全で平坦な場所に停める。
パーキングブレーキをかけ、イグニッションキー（エンジンキー）を抜く。

2 構成部品を確認する。
構成部品一覧を確認してください。

構成部品一覧				
① スピーカー本体 (ウーファー)		×2	② クッション (スピーカー表面用)	×2
③ クッション (スピーカー裏面用)		×6	④ φ4×16mm	×8
⑤ φ5×25mm		×8	⑥ ワッシャー (φ4用)	×8
⑦ ワッシャー (φ5用)		×8	⑧ ジョイントキャップ	×4
⑨ 樹脂ワッシャー		×8	⑩ 変換コード (ホンダ用)	×2
⑪ 変換コード		×2	⑫ チューナブル・ネットワーク	×2
⑬ 分岐コード (グレーライン) (ネットワーク・マイナス配線用) (DDL-RT16Sのみ)		×2	⑭ 分岐コード (ネットワーク・プラス配線用) (DDL-RT16Sのみ)	×2
⑮ コードクランプ (ネットワーク用)		×6	⑯ 防振クッション (両面テープ付) (ネットワーク用)	×2

※ DDL-RT16S のツイーター取り付け構成部品一覧は「2 ツィータ取り付け」を参照してください。

2. 取り付ける

1 ウーファー取り付け

① ドアパネルを外す。

適合車種の取り外し方法が記載してありますので、裏面の「車種別スピーカー取り外し方法」をご覧ください。

裏面に掲載されていないクルマの取付け情報に関してはアルパインホームページ「車種別取付け情報」をご覧ください。

👉🏻 www.alpine.co.jp

② 純正スピーカーを外す。

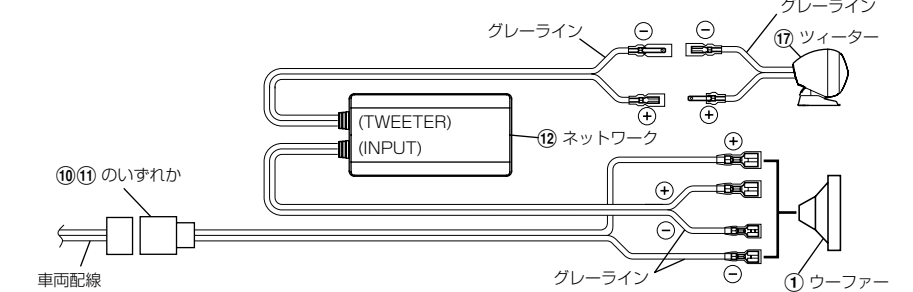
車種によっては特殊な固定方法で取り付けられていますので、以下を参照して取り外しを行ってください。

■トヨタ車純正スピーカー (リベット固定式)の取り外し方法	■純正スピーカーのネジ止めに グロメットを使用している場合
電気ドリル等を使用してリベットを取り外してください。 (φ4mm～φ4.5mmを使用してください。) 	アルパイン製スピーカーの取り付けに純正グロメットが不要な車種の場合は純正グロメットを取り外す必要があります。
■ホンダ車純正スピーカー（差し込み式）の取り外し方法	
(1) ネジ1本を外します。 (2) スピーカー裏面のフック2ヶ所が鉄板穴に差し込まれているので、上方向へ引き抜くようにしてスピーカーを外します。 	
※メタルフックで固定されている車種もあります。 その場合はマイナスドライバー等でメタルフックを上から押し、ロックを外します。	

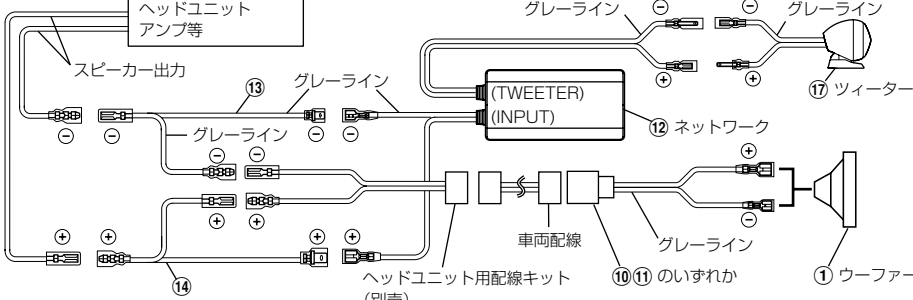
③ チューナブル・ネットワークとスピーカー線を接続する。

DDL-RT16Sの接続方法

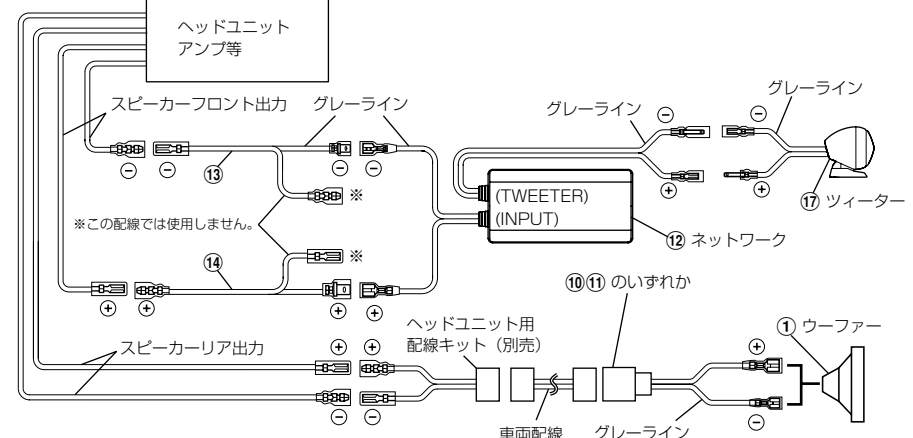
■ツイーターをウーファー部から配線する場合



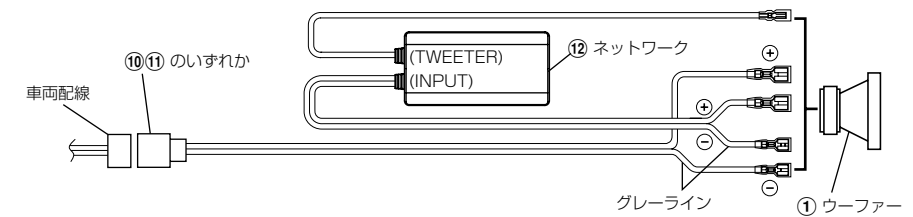
■ツイーターをヘッドユニット、アンプから配線する場合



■ツイーターとウーファーをヘッドユニットの4chアンプにマルチ接続する場合

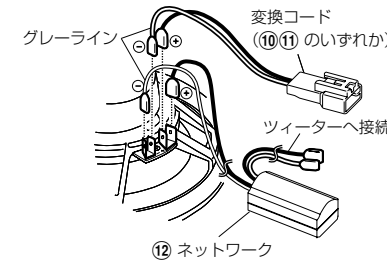


DDL-RT16Cの接続方法

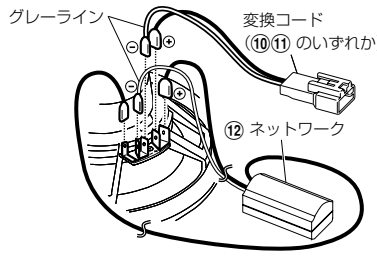


■接続時の注意

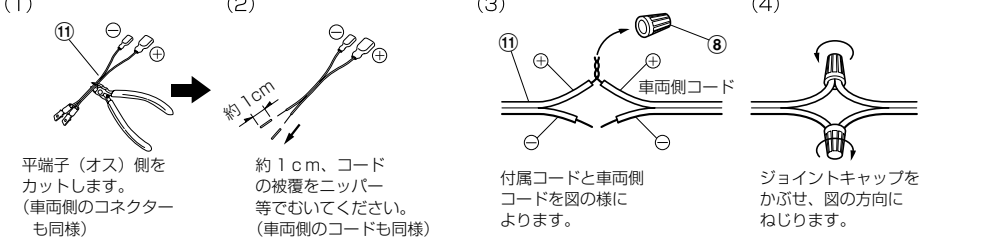
- スピーカー端子接続の詳細
<DDL-RT16S>



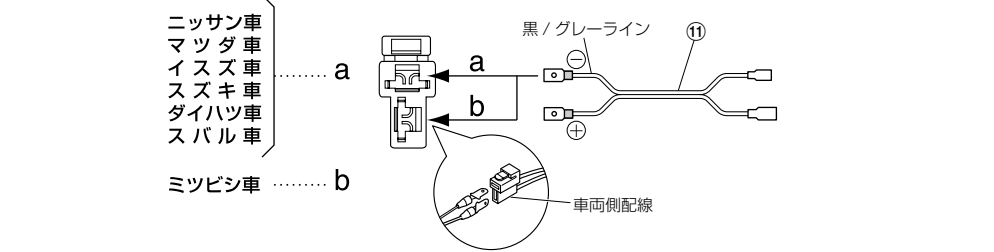
<DDL-RT16C>



- ジョイントキャップ⑧の使用法
付属の変換コードが合わない場合はジョイントキャップ⑧をご使用ください。
車両側のコネクターの極性を切断前にお確かめください。

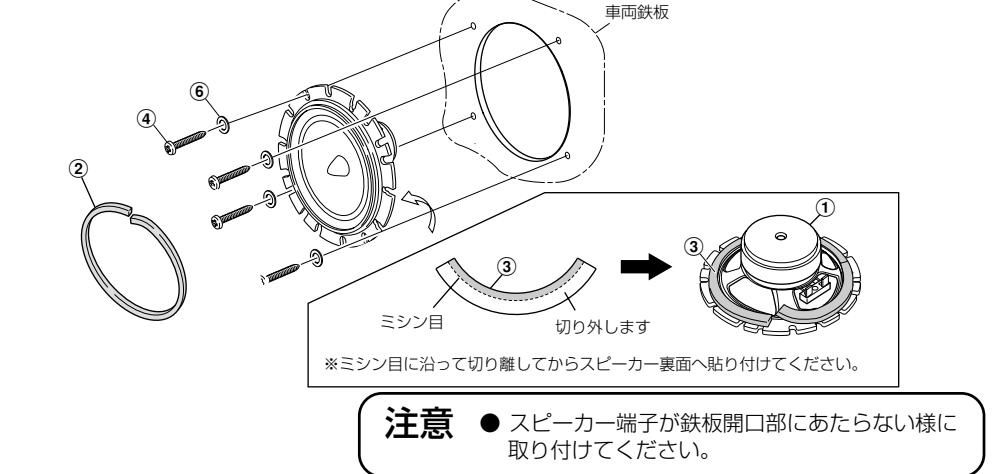


- 車両側コネクター「T型タイプ」時の注意（平端子の極性）



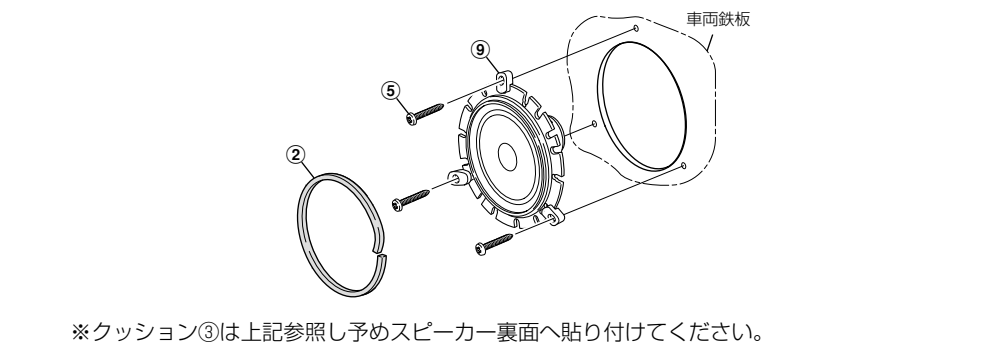
④ 本スピーカーを取り付ける。

- (1) スピーカー裏面にクッション③を貼り付けます
- (2) 本スピーカーを下記部品を使用し取り付けます。
- (3) 本スピーカー取り付け後、クッション②をスピーカーフレーム前面に貼り付けます。



- スピーカー端子が鉄板開口部にあたらない様に
取り付けてください。

■樹脂ワッシャーを使用する場合



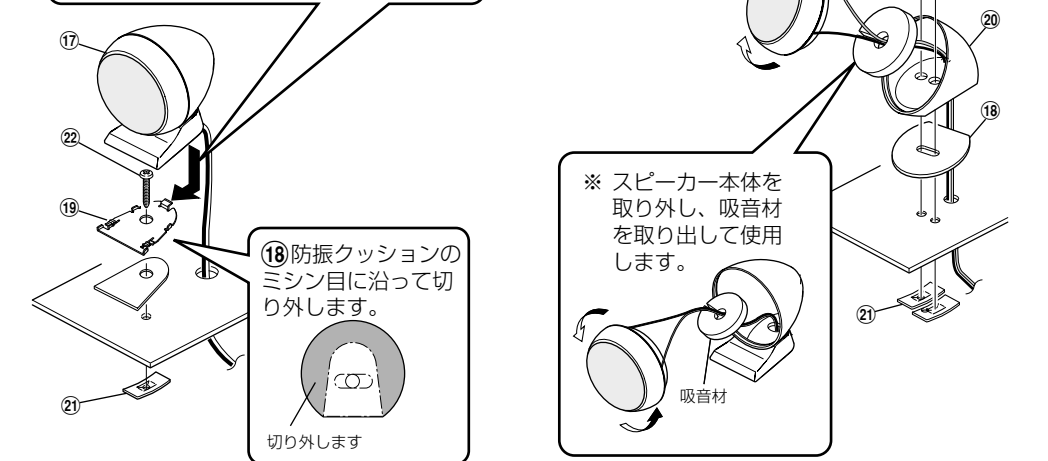
2 ツィーター取り付け (DDL-RT16S のみ)

構成部品一覧

⑰ スピーカー本体 (ツイーター)	×2	⑱ 防振クッション (両面テープ付)	×2
⑲ ブラケット	×2	⑳ スラントスパーサー	×2
㉑ 平型スピードナット	×4	㉒ φ4×16mm	×4

■取り付け方法

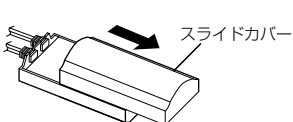
※ 底面部をブラケットに合わせはめ込み、
前にスライドさせて固定してください。



=> 裏面につづく

3 ネットワーク調整

付属のネットワークは上のカバーを矢印の方向へスライドさせて、中のジャンパー設定を変えることにより、以下の様な調整が可能となっております。



■DDL-RT16Sの調整機能

位相切り換え機能(TW PHASE)

リスニングポジションからのウーファの距離(Xw)とツイーターの距離(Xt)の差で生じる音のつながりの変化をチューニングし最適な音のつながりでお聴きいただけます。

Xw-Xt(cm)	推奨設定	ジャンパー設定位置
		TW PHASE
-35 ~ -20	NORMAL	NORMAL (初期設定)
-20 ~ -5	REVERSE	
-5 ~ 10	NORMAL	REVERSE
10 ~ 25	REVERSE	
25 ~ 40	NORMAL	
40 ~ 55	REVERSE	

※基本的には助手席側も運転席側と同じ設定にしてください。
※上記はメーカー推奨値です。
実際のお車に合わせお好みで調整してください。

ツイーターレベル調整機能(TW LEVEL)

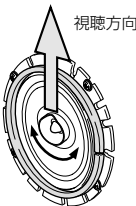
リスニングポジションからのウーファとツイーターの距離の差やツイーターの角度で生じる音量バランスの変化をチューニングし最適なバランスでお楽しみいただけます。

ツイーター	ウーファ	取り付け位置	推奨設定	-1.5dBの場合のジャンパー例
ツイーター	ウーファ	ツイーターがウーファより遠い又は同じ	OdB(初期設定)	0dB -1.5dB -3.0dB -4.5dB -6.0dB TW LEVEL
		ツイーターがウーファより近い	-1.5 ~ -3.0dB	
		ツイーターがウーファより近くリスナー方向に向いている	-4.5 ~ -6.0dB	
		※基本的には助手席側も運転席側と同じ設定にしてください。 ※上記はメーカー推奨値です。 実際のお車に合わせお好みで調整してください。		

■DDL-RT16Cの調整機能

ホーンツイーター指向性の調整

スピーカー取り付け後、ホーン切り欠き部分を回転させツイーターの指向性を視線方向へ調整することにより自然でつながりの良い音響再生をお楽しみいただけます。



ツイーターレベル調整機能(TW LEVEL)

リスニングポジションとスピーカー取付け角度で生じる音量バランスの変化をチューニングし最適なバランスでお楽しみいただけます。

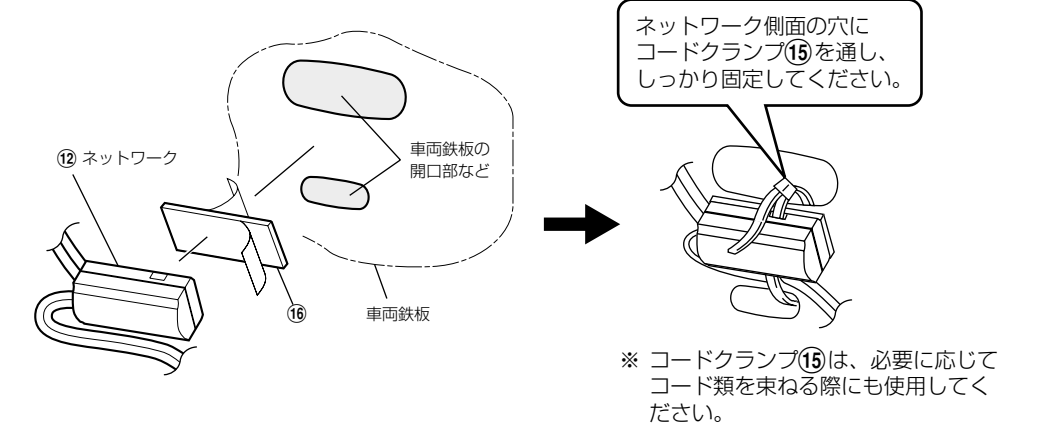
スピーカー本体の向き	リスナーに向いてない(A)	推奨設定	OdB(初期設定)	-1.5dBの場合のジャンパー例
リスナーに向いている(B)	A	B	-6.0dB	0dB -1.5dB -3.0dB -4.5dB -6.0dB TW LEVEL

●3WAYクロスオーバー機能を持つ当社ヘッドユニットで、3WAYシステムとしてご使用の場合は、下記の設定内容を推奨いたします。
・ミッドレンジ (LPF) / ハイレンジ (HPF) の周波数→ 8kHz
・スロープ調整→ 12dB
詳しい操作については、ヘッドユニット側の取扱説明書をご覧ください。

4 チューナブル・ネットワーク取り付け

ネットワークを取り付ける前に、各スピーカ配線後、ネットワークの調整を行ってください。詳しくは、「3 ネットワーク調整」を参照してください。

■取り付け方法



3. 確認する

- 不自然な当たりがないことを確認する。
特にスピーカーの端子が当たっていないかを確認してください。
- コード類を固定する。
突起部に当てたり、窓ガラスやドアの開閉時に、コードを傷めないように注意してください。
- イグニッションキー／カーオーディオ電源を ON にして、本機から音が出ることを確認する。
- ホーン（クラクション）、ストップランプなどの車両電装品が正しく動作することを確認する。

